

事例⑫

情緒障がい特別支援学級における「授業を通して分かったことを自分の言葉で説明できる」授業づくりの工夫

授業づくりの視点

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 学習意欲が持続しない生徒が、学習に対して前向きになる指導方法が分からない。

◆例えば、「数学科」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 数学科「平面図形～平行移動」 □ 中学校 □ 特別支援学級（自閉症・情緒障がい）

ファーストステップ！

本時の目標

- ・平行移動について、自分の言葉で説明することができる。（知識及び技能）
- ・平行移動の意味を考え、移動の前後の図形の性質や関係について気付くことができる。（学びに向かう力、人間性等）

ファーストステップ②

- ・生徒自身が操作（活動）できる教材を用いて、**学習意欲を高める工夫**をしましょう。
- ・**解き方の手順を「可視化」**して、定着問題で、**生徒自身が活用できるように**しましょう。
- ・**学習内容を焦点化**しましょう。

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 本時の流れ ○ <u>既習内容の確認（小学校第5学年「合同と三角形、四角形」）</u> ○ <u>定着問題（対称となる頂点の確認）</u> ○ 本時の学習目標の確認	■ 学習の流れを提示 ・ <u>学習内容や課題に取り組む手順、時間の経過等を視覚的に示す。</u> ■ 定着問題⇒知識の定着
展開	○ <u>単元の学習活動、本時の学習課題</u> ・ <u>ぴったり重なる三角形を見つける</u> ・ <u>ぴったり重なる三角形を書く</u> ○ 定着問題 類似問題	■ 課題の提示と確認 ・ 課題の内容を調整する。 ・ 平行イメージをもてるように板書の工夫をする。
終末	○ まとめ、振り返り ・ <u>図形の平行移動の意味を自分の言葉で説明する</u>	■ 本時の学びを自分の言葉で振り返る ・ キーワードを提示する。

ファーストステップ①

- ・授業の導入で、学習の流れを**視覚的に提示**するとともに、**生徒が分かる言葉で端的に説明**しましょう。（**静の時間**）
- ・定着問題では、**課題と向き合う時間（静の時間）、生徒の言葉で振り返る（動の時間）場面を設定**しましょう。



動の時間

ファーストステップ③

- ・ワークシートや板書から、矢印の向きや距離が同じで平行であることを導けるように「**キーワード**」を提示し、生徒自身が自分の言葉で自信をもって発表できる手立てを工夫しましょう。



静の時間